

## 平成 21 年度第 2 回 会計学教育 FD/IT 活用研究委員会 議事概要

- I. 日時:平成 21 年 8 月 22 日(土) 午後 1 時 30 分から午後 5 時まで
- II. 場所:ベストウェスタンホテル高山 会議室
- III. 出席者:岸田委員長、椎名副委員長、河崎、松本、金川、阿部各委員  
井端事務局長、森下、
- IV. 検討事項

日本会計研究学会発表の打ち合わせ後に、記録担当が選出され、会議が始まった。

### 1. 課題の検討～各分野からの報告～

今回の会議では、各分野の到達目標を精査し、4 つの学士力(案)と到達目標との関係を明らかにする。そのために、資料に基づいて会計学入門・管理会計・会計情報システムの各分野から説明がなされた。

#### (1) 会計学入門(資料(3))

前回の宿題として、PART II 「会計学教育における学士力と会計学入門との基礎関連」を追加して、[5]「会計学教育における学士力(案)」、[6]「会計学教育における学士力と会計学入門との必要最小限の基礎関連」を新たに設定した。p.4 の [10]会計学入門のラーニング・アウトカムズの概要で、入門に難易度があるのはわかりにくいために、「(3)上級到達レベル」を削除する。

「会計学入門」は「会計学総論」(中級レベルの会計学と識別するために入門をつける)または「会計入門」(社会学等他の学問との関連から会計学とする)とせずに現状通りとする。

#### (2) 教育の質保証に関する達成目標(2009年8月22日参考資料)について

資料に基づいて説明された。今回は具体的に見直している。期末試験のやり方次第で有効な測定基準になるのではないかと考える。質保証には、客観的な測定・期間的な測定を議論しなければならない。試験のやり方(統一試験、大学間の試験、検定試験、オンデマンドでの口頭試問)で質保証を保たせる。この問題について、試験の方法、試験の時期を中心に議論された。

#### (3) 管理会計

前回に問題を示している。初歩的な問題をどのように取り扱うかについて検討中である。

#### (4) 会計情報システム

日本会計研究学会発表のために作成した資料がベースになる。もう少し問題を増やすことを考えている。

### 3. 今後の方針

質保証をどのように考えるのかについて、たたき台を提出する。内容については、質保証は大学の方針との関係があり無理なので、到達目標の測定をどのようにするかに限定する。また、会計学全体でなく分野ごとに異なるのであれば測定方法は 4 つの分野で異なる場合もある。

### 4. 次回までの課題

測定評価を付け加える。

5. 次回委員会

10月10日(土) 午後4時～午後6時(遠方の委員は宿泊) 私情協事務局会議室

6. 配付資料

資料: (1)財務会計モデル授業案、(2)会計学教育における質保証の試み、(3)「会計学入門」の学資力質保証について[改訂6版]

参考: (1)分野別の教育課程編成上の参照基準について(基本的な考え方)、(2)分野別の質保証の枠組みに関する概念図、(3)大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会-今までの審議経過と今後の予定、(4)分野の単位の設定並びに分野の選定についての基本的な考え方、(5)(案)分野別の教育課程編成上の参照基準について(基本的な考え方)

その他資料: 教育の質保証に関する達成目標(2009年8月22日参考資料)

以上